北海道旭川東高等学校　令和4年3月1日

旭川東高だより

No.160

http://www.ah.hokkaido-c.ed.jp/

PTA事務局　〒070-0036　旭川市6条通11丁目　☎23－2855

学校標語　シマレ ガンバレ

目次

1頁　校長祝辞／PTA会長祝辞／卒業生を代表して(全・定)
2頁　卒業担任より(全・定)
3頁　卒業生へ贈る言葉(全・定)／予餞会／定時制だより
4頁　退職にあせて
5頁　学校祭／見学旅行
6頁　部活動報告

祝　辞

コロナに青春は渡さない

校長　小林為五郎

卒業生の皆さん、保護者の皆様、卒業おめでとうございます。新たな旅立ちに大きな期待とエールを送ります。

二年以上にわたって新型コロナ感染症に翻弄された高校生活となりました。昨年度は、長期にわたる臨時休校や緊急事態宣言が続き、目標としていた大会やコンクールも中止、楽しみにしていた学校行事も中止、そして高校生活最大の行事である見学旅行も延期の末、中止となりました。

コロナ禍の二年間、私は新型コロナ感染症に対応した教育活動について、難しく政策的判断を何度も行ってきました。何が正しいか分からないことに対しての判断をあとから振り返り、「本当にこれでよかったのか」と自問自答する場面もありました。そんな私をいつも鼓舞してくれたのは、一番つらく悔しい思いをしている皆さんの屈託のない明るい笑顔でした。「生徒たちの二度とはない高校生活をコロナには渡さない」という思いを胸に、「できない」ではなく「どうしたらできるのか」という発想に立って、生徒たちの教育活動の機会を確保するという考え方にシフトしました。もちろん、様々な知見や対応の積み重ね、保護者の皆さんの理解と協力、地域の支援、教職員の支えがあってのことです。

行事が縮小やリモートとなる中、皆さんが主役となって、感染防止に工夫して新たに作り上げた学校祭は、全日制、定時制ともに、実に見事でした。今はまだ制限が続きますが、虚しさや痛みを知っている皆さんは、当たり前にできることのありがたさや嬉しさを誰よりも知っているはずです。

これまでの頑張り結ん張りが必ず報われ、次の時代に繋がっていくことを信じて、大いに青春を謳歌してください。

親として

PTA会長　北岸　睦

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんにとっての高校生活は、新型コロナという未知のウイルスに翻弄された中、部活や学業、友達と一緒に・・・など思い描いていたことができず、また見学旅行やその他の学校行事も中止または縮小となってしまい、満喫した高校生活を送れなかったであろうことは、とても残念に思います。

それでも皆さんはこの困難な状況下でも歩み続け、そして今日ここで卒業していきます。私たち親から離れ、未来へと旅立っていきます。親としては、これから世の中に出てやっていけるだろうか？教えることはすべて教えただろうか？もっとやってあげることができたのではないか？など、心配・後悔・さびしさ・期待の念が入り混じる複雑な気持ちです。同時に、十八年間ここまで育ち、成長してくれてありがとう。と感謝の気持ちもあります。

これから皆さんは、さまざまな道を歩んでいきます。この先、思い通りにいかないこともあるでしょう。でもそんな時こそ周りの仲間を大事にしてほしい。一人ではありません。みんなで集まり、話をする機会が大きく失われ、時には孤立感にも苛まれた高校生活だったかもしれませんが、だからこそこの経験によって人として強くなったはずです。ここで卒業する東高第七十二期の皆さんは、何十年後も同じ校舎で一緒に過ごしてきた仲間なのです。そして、これから出会う新しい仲間たちにも。

私たち親はいつでも皆さんの味方です。いつでも頼ってきてください。そして生きてください。それが親としての願いです。

最後に、教職員の皆様には制約のあった学校生活を子どもたち及び私たち保護者のために、今までに経験のない対策・決断・実行していただいたことは、とても多くの苦労があったと思います。少しでも子どもたちのためにとの思いが伝わってきた三年間であり、無事卒業を迎えることができたことに心より感謝申し上げます。

卒業を迎えて

全日制3年　青木　涼馬

卒業を目前にしても、受験のせいか実感はない。それでも、来たる「卒業」に思いを馳せると、どうしても「別れ」が頭をよぎる。知り合いとの別れ、住み慣れた土地との別れ。別れの先に一人歩きするには広すぎる世界が待っていると思うと強い不安に駆られる。

しかし別れを意識するほど、これまでの大切な繋がりがはっきりと浮かんでくる。三年間を共にした友人、先生。あるいは、私たちをずっと支えてくれた家族。これからもこの繋がりを大切にしたいと思うと同時に感謝の念も湧いてくる。

受験、別れ、書けない答辞など様々なものに焦りを感じるこの頃だが、たまにはそんなことは忘れて、今笑い合える繋がりを大切にしたい。もうすぐやってくる旅立ちの日まで。

定時制4年　中野　珠利

四年間。長いようで短く感じられた日々だった。

私は高校生活を一度挫折している。再び入学した四年前の不安と緊張は、今でも覚えている。はじめはアルバイトと学校の両立がとても辛かった。特に早朝からアルバイトした後学校に行き、夜の授業では疲労が一杯、常に眠気との戦いだった。しかし、よいクラスメイト、尊敬できる担任の先生、優しく色々教えてくれる先生方にも出会えて、とてもよい学校生活を送ることができたと思っている。

新型コロナウイルスの影響で、休校や学校行事ができなかったことは残念だが、四年間めげずに頑張った自分をほめたいと思う。

卒業担任より

学年主任
松井　恵一

「一座建立・強い網」

3年間、2つの大きな想いを持って取り組んできました。1つめは一座建立。学年のテーマです。「その場に居合わせた者が互いに他を尊敬し、心を合わせ、心和んだ高い時間・空間を作り上げていく。」こと。2つめは強い網。学年通信のタイトルです。「大きな社会変化のうねりの中でも物事の変化や進化の本質を、自分自身の頭で考え、自分の力で表現し、実行できる強い網（センス）を持たせる。」こと。

物事を鵜呑みにせず、疑問があれば口にする。納得すると全力を尽くす。対話が好きで、賑やかな教室・廊下、縁につくりあげていく授業。未知なる状況に向き合う創造力。個人それぞれにいろいろあったかもしれないけれど、その都度、自分たちなりにその状況にしっかりと向き合ってきた。当たり前のようではあるけれど、当たり前の事ではない。想いを共有してくれる人たちがいたからこそ、想いはカタチになりました。

まさしく「一座建立」「強い網」。3年間を作ってくれた皆さんに感謝します。卒業おめでとう。シマレガンバレ！72期生！

1組担任
森実三保子

卒業おめでとうございます。当たり前のことができなくなったり制限が加えられたりするようになってしばらく経ちますが、そんな学校生活の中でも毎日楽しそうに過ごしているたくさんの笑顔に何度も救われました。友人を気遣う言動に感心する場面もありました。卒業生の皆さんのこれからの日々が沖きに満ちたものであることを願うとともに、自分の人生と同じように他人の人生も尊くあるということを忘れずに生きて欲しいと思います。

2組担任
森蔭　祐

今、これを書いているのは2月2日朝7：30。慌てているので、何を書いたらよいか悩んでおります。悩みながら時間だけが過ぎ、そして書くことも見つからず、書くことがないことをここに書いている、という感じです。皆さんの人生にもこれから悩むことがあるでしょう。そんな時はぼんやり過ぎていく時間を眺めることも必要なのかもしれませんよ。悩みながら、迷いながら、でもすべてのことを楽しみながら人生を歩んでください。卒業おめでとうございます。

3組担任
石本　潤

72期生の皆さん、卒業おめでとうございます。一人一人が様々な個性を発揮しながら日々充実した学校生活を送っており、担任として皆さんの成長を見守ってきた時間はとても楽しいものでした。

ここまで身に付けてきた能力をどのように社会貢献に活かしていくか、いろいろと思介な壁に出会うこともあると思いますが、個人の努力、仲間との協力でどんどん乗り越えていってください。

これから、みなさんが世界各地で活躍している話題が届くことを楽しみにしています！

4組担任
大内由貴恵

人と人との出会いとは、必然なのか、偶然なのか。そんなことを考えてしまうほど、君たちと出会えたことは、私の大きな財産です。

誰かと出会うことで、人は変わります。孫悟空がブルマと出会い、新たな世界へ飛び立ったように。青島優作が室井慎次と出会い、自己の信念を強固なものにしたように。

君たちと出会い、私は、国語力について、本当に深く、真剣に考えました。君たちのおかげで、私が成長できました。ありがとう。

君たちには、人を変える力があります。影響力があります。自分の力を信じて、自分の道を進んでください。

5組担任
城　将貴

この四、箱根研修の写真を見返しました。そこには、高校に入学し、これからの三年間を楽しみにしている二年生の皆さんの姿が見られました。そして、この三年間の顔つきの変化をまじまじと感じました。この三年間はどうでしたか？紐けた場面はあったでしょうか？成長できたと実感できましたか？

さて、卒業は終わりではなく、新しいステージへの始まりです。ぜひとも次のステージでも輝いてください。

最後になりますが、卒業おめでとう。

6組担任
中川　清文

多感な高校時代で何を想い、何を手にしたのでしょうか。「コロナウイルスによって世界が混乱した3年間は大きな変化への重性を高め、世の中の荒波に対して踏みとどまり、新たな一歩を踏み出すための力を高めるためにあったのだと感じずにはいられません。このような中で、「一座建立」という旗印の下で他者を認めて心を寄せ合いながら、仲間と自分を高めていこうと献身努力する、皆さんの姿はとても立派でした。

「世のため、人のために」。卒業生の皆さんが旭東での学びを活かし、豊かな人生と社会を創造されることを心より祈っています。

7組担任
堀江　昌昭

卒業おめでとう。幸運なことに六校3度目の担任をもつことができ、今度も幸せな3年間を送ることができました。様々な逆境の中、君たちは実にしなやかに対応し、ちゃんと成長し乗り越えてくれました。そして、当たり前にみんなが集まって授業できることが、私にとってはこの上なく幸せなんだと、改めて気づかせてくれました。みんな君たちのお陰です。どうもありがとう！最後に、このような素晴らしい生徒たちを育んでくださった保護者の方々や先生方、誠にありがとうございました。

定時制　4年担任
山根　志津

卒業おめでとうございます。四年間よく頑張りましたーという言葉では言い表せないほどの努力でした。仕事を終わらせてから登校していたのですから。早朝からの力仕事や調理、レストランやコンビニでの接客など、皆さんはいつも懸命に働いていました。熱烈な生活を感じるとき、それを支える人々の姿に思いを馳せることができるようになったのも皆さんのおかげです。

私は楽しい四年間でしたが、皆さんもそうであって欲しいと願います。仕事と学業を両立させ卒業する日分に自信を持って、これからの人生を歩んでください。

定時制　3年担任
近藤　剛史

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは高校時代の半分以上コロナの影響で満足いく学校生活を送れなかったことでしょう。見学旅行、学校祭、部事遠足など楽しみにしていた行事が中止になりました。

その中でも学業とアルバイトを両立し、無事卒業することができました。ここまでの道のりは決して楽なものではなかったと思います。

4年間もしくは3年間頑張った証が卒業です。自信を持って次の生活に踏み出してください。皆さんなら大丈夫です。

卒業生へ贈る言葉

「待っていてください。すぐに向かいます。」

2年1組　齋藤　時広

高校生にとっての365日がどれだけ重く、代替不可能なものであるかは3年生が最も切実に理解しているでしょう。高校生にとって1歳や2歳上の3年生は到底及ばぬ高い壁として在り続けるのです。しかし、ひとたび社会に出れば、同じ世代の挑戦者として見られ、これから世界を創る馬戦者として見えない未来に立ち向かうのでしょう。同じ希望や悩みを持ち、流動的な社会に、喜一憂しながら、懸命に生きていく同世代の仲間なのでしょう。私達がこれからの世界を担っていると言っても過言ではないです。これから新たな世界へ一歩踏み出す3年生の皆様、待っていてください。私達もすぐに向かいます。

「卒業生へ」

定時制3年　佐々木　友

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。今年は去年行事がほぼできなかったため色々な行事を行いました！特に学校祭、定体連ができて本当によかったです。定体連はみんながいい結果を残せて悔いの残らない戦いができたと思います。学校祭は今年に全日制とは別で行いましたがかなり盛り上がったと感じています。

卒業した後、進学、就職があります。さらに忙しくなると思いますし卒業してからが大変ですが頑張ってください！在校生みんな応援しています。

僕達在校生は先輩達を見習って学校生活を送ってきました。これからは僕ら3年生が先輩のようにみんなを引っ張っていける様な4年生になれたらと思います。

コロナ禍での新たな予餞会

2年5組　成田　咲良

一月二十一日、予餞会が行われました。体育館での開催ができないため昨年度は中庭での雪文字企画とメッセージカードのみとなってしまいましたが、今年度は本来は体育館で行っていた企画を映像に収め、各ホームルーム教室でスクリーンに投影しました。これにより例年に近い内容の予餞会を行うことができました。執行部にとって、行事を終始映像で進行していくことは初の試みで、慎重に準備を進めていく必要がありました。複数のカメラの使用やカメラワーク、編集といった映像であるからこそ工夫できる点は多く、何度も出演団体の方との打ち合わせを重ね撮影に臨みました。例年の企画に加えて、今回東高の全ての部局同好会に数十秒の応援映像の作成を依頼し、それらを繋げ予餞会映像の一部としました。発表する生徒以外の在校生が受け身となってしまうという懸念があった中、全校を巻き込んだ予餞会とすることができました。

また、昨年同様雪文字を一年生の皆さんに作成していただきました。さらに、今年度新たに絵馬型のメッセージカードを掲示する「旭東神社」を設置し、多数のメッセージが寄せられました。

終始実際という初めての挑戦に不安でいっぱいでしたが、予餞会が終わった後に二年生の方から「楽しかった」や「面白かった」などの感想をいただき、手ごたえを感じました。

協力していただいた先生方、在校生の皆さんの誰が欠けても予餞会は成せなかったと思います。この場をお借りしてお礼申し上げます。大変にありがとうございました。

定時制だより

4年生8名、三修制3年生4名、計12名の卒業生の皆さん、晴れて卒業を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。これまで温かく見守っていただいた保護者の皆様、おめでとうございます。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により様々な行事等が中止（遠足・見学旅行）になりました。遠足は熊出没の影響もありました。

そうした中でも、定通体連は二年ぶりに開催され、卒業生の福塚紫陽君の活躍によって卓球部は団体で全道優勝、個人でも福塚君は全道優勝し、全国大会出場を果たしました。

令和3年8月3日（火）～6日（金）、奈良県奈良市ロートアリーナ奈良にて、令和3年度全国高等学校定時制通信制体育大会（全国大会）卓球競技が開催されました。

旭川東高校は男子団体で3回戦に進出しベスト16、男子個人の福塚君も、強豪校の選手を相手に大健闘しました。

【男子団体】（ベスト16）

1回戦：旭川東3対1前橋育英（群馬）

2回戦：旭川東3対0新庄北（山形）

3回戦：旭川東1対3西宮香風（兵庫）

【男子個人】

2回戦：福塚紫陽（旭川東）1対3古部（横浜総合：神奈川）

さて、1月31日（月）、恒例の「卒業を祝う会」が開催されました。今年も密を避けるため給食室ではなく体育館で行われました。学年交流の「クイズ」、学校生活を振り返る「スライド上映」等、卒業生と在校生との交流の時間が惜しまれつつ過ぎていきました。先生方から卒業生への一言では、卒業生の成長や思い出話が卒業生一人ひとりに伝えられました。

卒業生代表の福塚君からは在校生へのメッセージと先生方へ感謝のことばが伝えられました。

この後は、コロナ禍の中で行われたその他の行事を紹介します。

①二十歳前飲酒禁止教室

9月29日（水）

旭川酒販協同組合の今井明信さんをお招きして、若年者の飲酒の弊害をお話しいただきました。またお酒に「強い」「弱い」がわかるアルコールパッチテストを実施し自分の体質も知ることができました。

②薬物乱用防止教室・防犯教室

11月30日（火）

旭川少年鑑別所の方を講師として、薬物の基本的な知識から、薬物乱用の恐ろしさを講話や映像を使って教えていただきました。生徒達は真剣なまなざしで講話を聞き、謝辞では薬物に手を染めないことを誓っていました。

退職によせて

「定年という名の卒業」

校長　小林為五郎

昭和六十年四月からの三十七年間、出会った生徒、保護者、同僚、地域関係者、教職員など、どれ程の人との出会いがあったのか、推し量ることも出来ません。ただ、出会いの一つ、つまり、自身の成長に大きく関わってくれたものと感謝の気持ちでいっぱいです。

いつの頃からか、先輩が安心し、同輩から信頼され、後輩から慕われる、そんな人生の歩みを目標として、時を歩んできました。

私のこれからも、謙虚に淡々と、人生目標の達成のために、能力と人格を磨く旅を最終章まで続けていきたいと思っています。

清新にして発剌な生徒に囲まれ、長い歴史と伝統を継承し、素晴らしい教育成果と社会貢献をしてきた本校に勤務できた幸せをかみしめながら、これからは、旭東サポーターとして応援していきます。

ありがとうございました。

「Benchwarmer」

全日制（英語）　原　徳之

高校時代を含めると、ほぼ四半世紀の間、東高で学ぶ機会をいただいたことを光栄に思います。受験に団体戦という理念のもと、自らの可能性を追求する東高生は私の憧れでした。キャリアの晩年にさしかかり、ようやく「団体戦」のメンバー入りを果たせたかな、と感じることができるようになりました。万年補欠でも、私にとってそれは誇りです。

「人の心を動かす音楽」

全日制（音楽）　千葉　一彦

強い動機と精神力、そして何よりも自分の「限界」へのさらなる挑戦が私自身の教員生活を維持できたキッカケである。勿論、指導法法をしてくださった諸先輩方、同僚の先生方、地域の皆様、音楽家の諸先生方には感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

埼玉県八潮市立八潮第二中学校三年、鉾田町立宇登呂小中学校四年、北海道斜里高等学校九年、旭川農業高校九年、旭川東高校十二年、二十六年間教職に就きました。微力でございましたが、生徒と楽しく過ごすことが出来、多くの思い出が残されました。有り難うございました。また部活動では、時間の限られた中、一生懸命に努力して、規律に満ち、時間の使い方に長けた、音楽の工夫を常に考えてきました。今年は新型コロナウイルス感染のために何度も時間の制約や休部しながら多くの大会に出場して参りました。また、野球の応援も行ったことも嬉しく思います。本年度三月二十日(日)午後一八時三十分開演で第二十二回定期演奏会を最後に旭川東高校吹奏楽部の指揮を終えます。「人の心を動かす音楽」を目指しタクトを振ります。

十二年間本当にお世話になりました有り難うございました。

「東高での2度目の卒業」

全日制（体育）　中山　正幸

令和4年3月31日をもって教職38年間を卒業する事になりました。これもひとえに多くの方々の支えがあってここまで来られたものと感謝申し上げます。私にとっては単に退職というだけではなく、旭川東高校での2度目の卒業ということになります。1度目は自身の「高校生時代の卒業」であり、今回は「教員としての卒業」を東高で迎えられることになります。今まで60年間生きてきた訳ですが、この60年間を振り返ると「高校生だった東高の3年間」と「教員としての東高勤務6年間」計9年間が自分のこれまでの人生の中で最も充実していた時間だったと確信しています。高校生時代は「勉強」、「部活」に一生懸命でした。また、教員としては「陸上部顧問」として、常に「生徒ドリーム」をかなえて取り組んで来たつもりです。至らない点も多々あったと思いますが私なりに取り組んで来たつもりです。ご容赦ください。

私の後任の先生が来られると思いますが、一緒に東高を盛り上げて行ってくれることを祈っています。生徒諸君、後で振り返ったとき「東高時代は楽しかったな」と思えるような高校生活を送ってくれることを切に願います。これまで6年間ありがとうございました。

「初心を忘れずに」

全日制（数学）　近藤　誠

早いもので、三十七年間の教員生活ももうすぐ終わろうとしています。ホーソック管内の遠軽高校で教員生活を始めてからここまで、常盤一条高校、旭川凌雲高校、滝川西校、そして最後は本校での勤務となりました。それぞれの高校にそれぞれの良さがあり、思い出は尽きません。嬉しいことも悲しいこともありましたが、いつも生徒に助けられた教員生活だったように思います。

昔からは今までとは違った環境の中での生活になりますが、教員生活での思い出を胸に、自信を持って「初心を忘れることなく」頑張ってみるつもりです。皆さんに一つアドバイスをするなら、考え方がマイナス思考に陥った時には、意識的に「背筋を伸ばす」「胸を張る」ことをやってみると、何かしら心にやる気と自信のようなものが湧いてきますよ。何かに行き詰まったら、深呼吸をして天に向かって伸びをする。ぜひお試しあれ！

「退職によせて」

全日制（理科）　小林　英樹

シェークスピア作「ハムレット」で主人公は言います。「人生は選択の連続である」と。私が無事に退職を迎えられるのは、これまでの自らの選択の結果と、周囲の方々の助力によるものと感謝申し上げます。その選択の判断基準となるのは自らの価値観であり、それが自らの人生を形成していくといわれています。しかし、現代の生活では、他者からの多過ぎる情報に惑わされ、自らの価値観を見失いがちです。自分の価値観をどれだけ深く理解できているかで、勉強や仕事の成果、ひいては幸福感が大きく変わってくるといいます。自分の価値観に沿って生きていれば、周囲の評価に関わらず幸福感が得られますが、他者の価値観に沿った生き方では信頼には成功していても、本当に苦しいものです。是非皆さんは自らの価値観と向き合い、一度きりの人生を自分らしく生きてください。高いポテンシャルを持つ皆さんならば、成果は必ず付いてきます。皆さんの今後の活躍を楽しみに、私も今後の人生を歩んでいきたいと思います。

「本校での思い出」

全日制（英語）　高子　和雄

旭川東高校に10年間お世話になり、今春で退職を迎えます。大学卒業後、小樽工業高校・留萌高校・札幌琴似高校・北見北斗高校・旭川東高校と5校に赴任してきました。さまざまな学校でさまざまな思い出がありますが、やはり最後のこの旭川東高校が一番思い出に残っています。卒業生は1回しか出せませんでしたが、囲碁・将棋部の顧問を10年間もさせてもらいました。囲碁・将棋のことは全くわからず、単なる引率教員でしたが、生徒のおかげで北九州・東京・大阪・和歌山の全国大会に引率させてもらいました。特に和歌山の総合文化祭の囲碁会場は那智勝浦町で行われ、最終日には生徒と観光もしてきました。このような大会がなければ決して行けない場所です。専門家でない私を受け入れてくれた生徒には感謝しています。最後となりますが、無事10年間過ごせたのもいろいろな方から助けていただいたお陰だと思います。退職後に旭川を離れ、札幌に転住しますが、皆様の益々のご多幸を願っております。ありがとうございました。

「ファースト　ステージ終了」

全日制（英語）　滝澤　俊秀

ついに還暦の歳になりました。人生一〇〇年時代といいますが、本当にそのような時代が来ようとしていることを実感しています。これからセカンドステージに入ろうとしています。一度の人生を楽しみたいと思います。

さて、今年の三月三十一日で、教員人生が終わります。振り返れば、稚内・名寄・旭川・札幌と五校で担任を持ち、様々な生徒・保護者と接することが出来ました。最後にこの伝統ある学校で勤めることができ光栄なことだと思います。

本校の生徒は、噂には聞いていましたが、勉強はもちろんのこと、行事・部活動に一生懸命に取組むことに感銘をうけ、刺激を受けました。（ちょっ、手抜きもしっかやる。）この伝統校ある学校で勤めることができ、心から幸せに思っています。

最後に、皆様に今後社会で、様々な環境（ウイルスも含め）で様々な人と接することになると思いますが、「シマレガンバレ」精神で楽しんで人生を謳歌してください。

「退職によせて」

定時制（家庭）　山根　志津

四年前、「最後の勤務校として本校定時制に赴任して参りました。初めての定時制での生活は不安な気持ちもあったのですが幸い新人生の担任になり、自分の中で目標を持って新学期をスタートさせることができました。

「四年間頑張って登校し、みんなで一緒に卒業しよう」。それが入学の日にクラスの生徒と交わした約束でした。それはのんきな私自身に対する戒めでもありました。残念ながら全員揃って卒業することはできませんでしたが、「四年間頑張り抜いた生徒たちと学校を去ることができ、「安堵と充実感で一杯です。

心温まる職員室と、人懐っこい生徒たち、バランスのとれた美味しい給食、そしていつも見上げていた夜空の月に感謝します。ありがとうございました

執行部員としての学校祭

1年1組
野村　柑奈

私は、生徒会執行部員として学校祭を運営する側に立ちました。初めて学校行事の運営をすることで、集団をまとめ、動かすことの難しさを学びました。組織の中での情報共有が上手くいかないと、全校生徒への情報伝達が曖昧になってしまいます。それは、混乱を生じさせ、スケジュール通りの運営を困難にさせることがわかりました。

今年度は、新型コロナウイルスの影響によって、学校祭を経験したことがなく、イメージを持てない学年が二学年おり、唯一経験していた三年生に頼りきりになってしまいました。また、仮装行列や一般公開をすることが出来なくなってしまったため、想定していなかった問題などが、準備期間から多く起こり、思い通りに出来ない部分が多々発生しました。たくさんの制限や検討事項がある中でも、全校生徒に楽しんでもらおうと何度も会議を重ねました。会議では、思い悩む先輩方の姿から、学校祭を成功させたいという強い思いを感じました。しかし、執行部に入ったばかりの私は、その会議の内容を聞くことしか出来ず、自分の意見を出すことが出来ないことへのもどかしさを感じました。この経験を踏まえて、現在進めている来年度の学校祭に向けた会議では、積極的にかかわり、よりよい学校祭を計画していきたいと思います。

まだ先の見えないコロナ禍ではありますが、今年の経験を活かし、皆さんの高校生活の思い出に残るものを作りたいです。そして、東高の伝統を受け継ぎながらも工夫を凝らして、唯一無二の学校祭を作っていきます。

見学旅行を終えて

2年5組
三戸部　恵

歳末の候、私達73期生は関西へ3泊4日の見学旅行に行ってきました。

大阪に降り立ってみてまず驚いたのが、街路樹が青い葉を広げていたことでした。気候との関係を考えてみれば当然のことですが、冬に北海道を出たことのない私にとっては非常な発見で、去る土地では不香の花が咲いていたというのに、こちらでは生花の香りもするのかと嬉しくなりました。

一方で、ところによっては紅葉や公孫樹の色付きも鮮やかで、素晴らしく恵まれた天候のもと、古都の雅趣深い文化財の数々を拝見できたことはとても幸せでした。なかには12月ならではの景色もあったのかと思うと、却って延期された日程が好ましく感ぜられたほどです。殊に夕映と紅葉のなかで散策した清水寺の荘厳な美しさと、青天に聳り立つ姫路城の白く屹立とした天守閣の素晴らしさは今でも強く心に残っています。

見学旅行はその名の通り「見て学ぶ」ものです。しかし勿論、それだけが全てではありません。その土地の文化や食、風土に触れ、或いは読法を拝聴したり、地元の方々と関わったりしていくなかで様々なことに気付き、歴史や人生について思いを馳せる機会もありました。集団行動や公共性が求められる非日常において、これから「社会人」へとなっていくための主体性や柔軟性などについても多くを学び、得ることができました。

最後に、このコロナ禍という厳しい状況のなかで、私達が多くの得難い経験をすることができたのは、先生方を始めとして旅行に携わって下さった沢山の方々、そして何より、私達を送り出してくれた家族あっての事でした。そうした方々への感謝を忘れず、見学旅行で得た経験や知識をこれからの生活で活かしていきたいと思います。

部活動報告

【地区大会】（☆印は全道大会出場）

[illegible]

【全道大会】

[illegible]

【全国大会】

[illegible]